

美術専攻 日本画研究領域

マキノ リン

## 榎野 鈴



## Sanctuary

紙本着彩、岩絵具、水干絵具、雲肌麻紙

## Sanctuary

人は誰しも他者に完全には理解されない痛みや苦しみを抱えながらも、それと同時に自分だけの楽園や居場所を心の中に持っているとは私は信じている。夢や空想を通じて、そのような世界を「庭」のように創り上げ、絵画という形で表現することは、私にとってかけがえのない営みである。

私が描く「庭」は、幻想的な心象風景であったり、印象的な現実の光景であったりと様々であるが、共通して植物が必ず登場する。植物は私にとって最も「居心地」の良いモチーフであり、それらを組み合わせることで、誰にも侵されない自分だけの居場所を築いている。そこは孤独を楽しむ前向きな気持ちから生まれた場所であり、誰にも見つからないような空間でありたいという想いが込められている。

私の作品の中に度々登場する屏風は、そういう架空の世界と現実の世界の「境界」を表現するためのモチーフの一つである。わざわざ「境界」を描く理由は、屏風が古来より、眠っている人間の身体を霊的なものから守る結界・盾として使われてきた道具であることから、自分が安心していられる場所だということを暗示させたいからである。また、閉じたり開いたりすることで架空世界を簡単に現実空間から消失・出現させることができる道具であることから、人がそれぞれ持っている「居場所」、私にとっての「庭」が実際に見えなくても影を潜めて現実世界に干渉しながら私たちを見守っているかもしれないという前向きなメッセージを含ませている。

私は、こうした「庭」を描くことで、自分自身の感情を癒しながら、同時に孤独を感じている鑑賞者の心にもそっと寄り添うことを目指している。他者と完全に共有できない痛みがある一方で、自分だけの静かな居場所を絵として具現化することは、その痛みに向き合い、乗り越える力にもなると考えている。

自分の「庭」は、現実の記憶ではなく空想から生まれることが多いため、今後はそこに自身の感情やリアリティを感じさせる要素を取り入れていきたい。そうすることで、単なる空想を超えた、より深い意味を持つ「居場所」を描き出すことができると感じている。